

公開シンポジウム「TUT オープンチャレンジプロジェクト 2010」

開催のお知らせ

10年後、私たちの身のまわりではどのようなロボットやインタラクティブ・メディアが活躍していることでしょうか。文部科学省 理数学生応援プロジェクトの委託事業として進めている『TUT オープンチャレンジプロジェクト』では、機構設計、電子デバイス技術、情報技術、プロダクトデザインなどの多様な専門分野の協働、および高専生、学部生、大学院生などの多様な世代間での協働により、10年後に活躍する新たなロボットやインタラクティブ・メディアの企画提案、プロトタイプ構築、国内外での技術展示・コンテストへのチャレンジなどを「スーパーエンジニア養成プログラム」の一環として行っています。

本シンポジウムでは、コミュニケーションロボット研究の最新動向やインタラクティブ・メディアにおけるインタラクション技術に関する2つの招待講演、本プロジェクトの成果報告、デモンストレーションを通して、未来志向のロボットやインタラクティブ・メディアに関連する技術、および技術者教育プログラムについて、広く情報交換を行いたいと考えています。

記

日時：2011年3月21日(月・祝日) 12:30-17:30 参加無料

(ロボット等の展示は、3月20日 13:00-17:00, 3月21日 10:00-17:30)

会場：豊橋市こども未来館 ここにこ

〒440-0897 愛知県豊橋市松葉町三丁目1番地 (豊橋駅東口から北へ徒歩10分)

Tel: 0532-21-5525 (<http://www.coconico.jp/>)

主催：文部科学省 理数学生応援プロジェクト

「TUT オープンチャレンジプロジェクト」運営委員会

ホームページ：<http://www.icd.cs.tut.ac.jp/TUTOCP/>

共催：豊橋技術科学大学 人間-ロボット共生リサーチセンター

問合せ先： Tel: 0532-44-6886 Fax: 0532-44-6873 (担当 岡田)

事前登録：

sympo@tutkie.tut.ac.jp まで、お名前、ご所属、連絡先の情報をお送りください。

事前に参加登録していただいた方には本公開シンポジウムの資料集を用意します。

公開シンポジウム「TUT オープンチャレンジプロジェクト 2010」プログラム

■ 開会挨拶 (12:30-12:35)

寺嶋 一彦 (豊橋技術科学大学 人間-ロボット共生リサーチセンター長)

■ 特別講演 (12:40-14:40)

特別講演 1. 「世話されるロボットとの共生による生きがい創出」

加納 政芳 (中京大学 情報理工学部 機械情報工学科 准教授)

特別講演 2. 「創造性をはぐくむインタラクション」

五十嵐 健夫 (東京大学大学院情報理工学系研究科 准教授)

■ プロジェクトの紹介 (14:45-14:55)

「TUT オープンチャレンジプロジェクト」の本年度の活動について

岡田 美智男 (豊橋技術科学大学 情報・知能工学系教授)

■ プロジェクトの成果報告 (15:00-16:10)

本年度のプロジェクトで制作された未来志向のロボットやインタラクティブ・メディアに関する紹介を行います。

- cocoron : 子どもと触れあう、不定で、たどたどしい動きをする球体のロボット
- coordy: よたよたと歩く、かわいい多脚型コミュニケーションロボット
- CULOT: 子どもたちとブロックの中で遊ぶ、ブロッククッション型ロボット
- minicry: テーブルの片隅に生息する仮想クリーチャとのインタラクション
- chronos: 会話の中の何気ない「つぶやき」に聞き耳をたてる音声ツイッター
- atinon: 胸ポケットから顔をのぞかせる、モバイルなパーソナルロボット
- ROULET: 慣性モーメントで合体・変形を繰り返す、不思議なパネル型ロボット

■ ロボットの展示およびデモ (3月20日 13:00-17:00, 3月21日 10:00-17:30)

上記の本年度のプロジェクトの作品に加え、これまでに制作されてきたロボットやインタラクティブ・メディアの展示およびデモを行います(一部は静態展示)

- COLUMN 2010 (形状を変形させながら転がるロボット)
- Robomo (バッグに入れて持ち運ぶ、モバイルなクリーチャ)

- ゴミ箱ロボット (子どもたちのアシストを上手に引き出しながら、ゴミを拾い集めるゴミ箱ロボット)
- Sociable Dining Table II (ダイニングテーブル上に棲う、ランプ、ポット、お皿)
- 蒲郡みかん型コミュニケーションロボット(蒲郡商工会議所との共同開発)
- NEXUS+ (クリーチャの共有に基づくネットワークを介したコミュニケーション)
- Sociable Spotlight (会話の流れに合わせながら、自律的に動くスポットライト)
- HINOCO (カーテンの中に棲うクリーチャとのインタラクション)
- TongTongPhone (「指先でささやく」さりげないコミュニケーションメディア)
- マコにて (手をつなぎながら一緒に散歩する、孫のようなロボット)
- Peepho (子どもの関わりを引き出しながら、子どもたちの表情を写し撮るロボット)
- TableTalkPlus (人の共同性やつながりを引き出すインタラクティブ・メディア)
- MoCoMo (人と人との触覚的なコミュニケーションを媒介するメディア)
- Be-Go II (B5サイズのパーソナルロボット)
- Sociable PC (トウフのようなロボット、ロボットのようなパソコン)
- Mawari (USB ガジェットとして機能する参加型のソーシャルインタフェース)
- ACTIVITS (人との緩やかなつながりを引き出すモバイルなメディア)
- Muu (一つ目をしたコミュニケーションロボット)
- その他

特別講演の概要、講師の略歴

特別講演 1. 「世話されるロボットとの共生による生きがい創出」

加納政芳 (中京大学 情報理工学部 機械情報工学科 准教授)

講演概要：

人は年を重ねると心理的・社会的喪失体験を経験しますが、それによって健康障害が誘発されるといわれています。このような状況を未然に防ぐためには、高齢者が生きがいをもって生活することが重要です。我々は、そのきっかけを与えるためのロボット「世話されるロボット Babyloid」を開発しています。本発表では、Babyloid の開発コンセプトならびに実証実験で得られた結果について紹介します。

講師略歴：

1999 年名古屋工業大学工学部知能情報システム学科卒業。2004 年同大学大学院博士後期課程修了。博士 (工学)。同年中京大学講師、2010 年准教授。この間、多数の民間企業が共同開発した感性会話型ロボット「ifbot」の開発プロジェクトに参加。その後、人の感性に主導されるヒューマン・ロボット・インタラクションに興味を持ち、赤ちゃん型のロボット「Babyloid」を開発。

特別講演 2. 「創造性をはぐくむインタラクション」

五十嵐 健夫 (東京大学大学院情報理工学系研究科 准教授)

講演概要：

五十嵐デザインインタフェースプロジェクトでは、一般の人がみずからさまざまなものをデザインできるようにする技術の開発を行っている。具体的には、デジタルメディアを作成する手法、服や家具などをデザインする技術、さらに、家庭用ロボットに指示を出す方法などについて紹介する。

講師略歴：

科学技術振興機構 ERATO 五十嵐デザインインタフェースプロジェクト総括、東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻 准教授。ユーザインタフェース、特に、インタラクティブコンピュータグラフィクスに関する研究に取り組んでいる。手書きスケッチによる 3次元モデリングシステム、マルチタッチによるアニメーション作製システムなどで知られる。